

# おうとう「紅秀峰」の剪定と灌水改善による3L生産技術

山形県農業総合研究センター園芸試験場

## 研究のねらい

おうとうの国内外の競争力を高めるため、大玉で食味の優れた「紅秀峰」について、3L（横径：28mm以上）果実の安定生産に向けた栽培技術を開発した。

## 研究の成果

- ① 主枝上の側枝は横～上向きのもを中心に5本/m前後となるように剪定し、側枝上の短果枝は下向きや密集した部分を間引き、20個/m前後に制限することで、3L以上の果実割合が高まる（表1、図1）。
- ② 灌水は、発芽期～着色始期はpF1.8、着色始期～収穫7日前はpF2.0、収穫7日前～収穫期はpF2.4を目安に実施し、「佐藤錦」の目安より土壌水分が多めとなるよう管理する（図2）。
- ③ 剪定を改善し、「佐藤錦」より多めの灌水を行うことで、3L以上の果実割合がより高まる（表2）。

表1 剪定改善による3L以上の果実割合（H28～H29）

区	H28			H29		
	側枝数 (本/m)	短果枝数 (個/m)	3L以上 (%)	側枝数 (本/m)	短果枝数 (個/m)	3L以上 (%)
剪定改善区	4.9	20.7	75.3	5.4	16.5	40.2
慣行区	6.0	23.1	56.4	6.2	23.7	25.9

表2 剪定と灌水改善による3L以上の果実割合（H30）

区	側枝数 (本/m)	短果枝数 (個/m)	3L以上 (%)
剪定+灌水改善区	5.2	17.8	64.1
慣行区	5.4	20.9	16.1

※慣行区は、「佐藤錦」の目安で灌水。

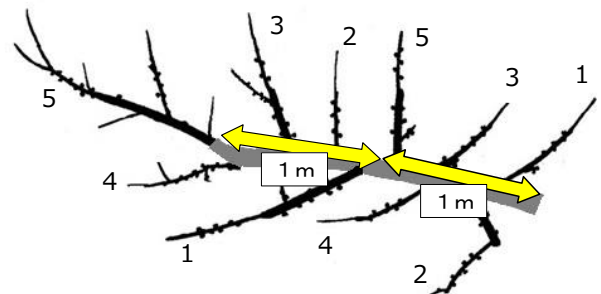


図1 主枝上の側枝密度の調整  
(横～上向きの側枝を中心に構成)

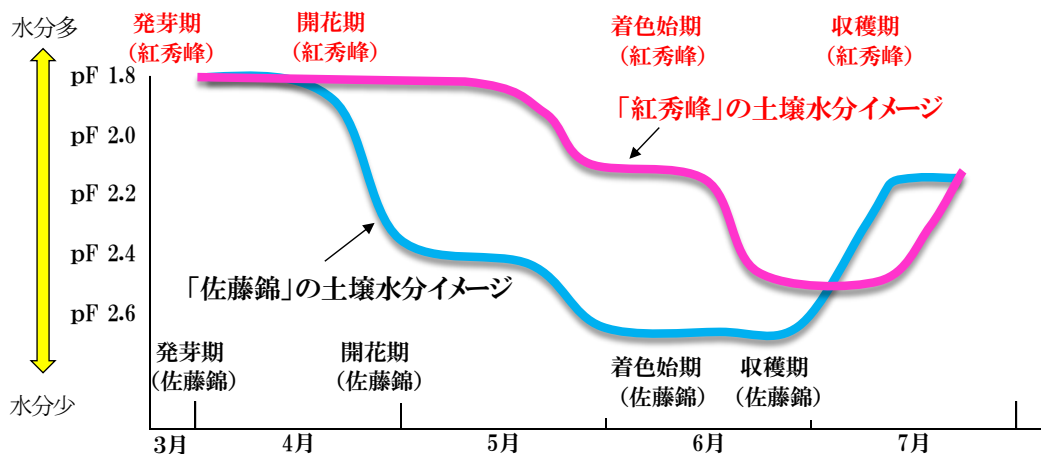


図2 「紅秀峰」大玉生産のための土壌水分イメージ